

2022_2_13 解説追加

2017_7_4 訂正

ホツマツタエ 超古代史 新年表 解説

ホツマツタエ研究家 吉田六雄

目的

ホツマツタエ(本)を歴史書と証明するため、超古代史新年表を発表した。

【スス暦】

暦法:世界に類を見ない高齢を記述する暦である。そのため、アマテル神の年齢は約百七十三万歳、また、臣の年齢も約八十四万歳などであった。

スス暦の解析

アマテル神、臣たちの年齢に隠された秘密がないか、スス暦の仕組みを解析し、太陽暦での年齢表示に挑戦して見た。

1～約27鈴

アマテル神の生まれは 21 鈴であり、ホツマツタエの4アヤ(綾)39～40に「天の原十六穂居ますも 一日とぞ」との記述があった。ホツマ・エトで解析すると、「1 日を 16 穂」で数えており、この期間は 1 鈴～約 27 鈴に及んでいた。後に、1 日と 16 穂の関係は、「アエヤエの法則」で成り立っていることが立証された。

27鈴～50鈴(改暦)

アマテル神、オオヤマスミ、モノヌシの臣たちの家系の各 5～6 人の年齢を、1 日 16 穂で計算すると、約 27 鈴以降は逆に年齢が増加し、現在人と比較すると約 2 倍(長暦)の年齢になっていた。その原因調査のため、ホツマツタエの記述を精査すると、21 アヤ(綾)64 に、「アエよりヤエの 中五日 森お離れて」との暦に関する記述があった。この記述の御世は、「二十六鈴十七枝二十三穂(スス暦の記述)弥生初日」から始まる御世であり、キヨヒトの皇孫が「名も新治宮 フトマニに宮造り法 定めよ」と大物主に勅りされていた頃であった。更に、「アエよりヤエの 中五日」の記述をホツマツタエ・エトで丹念に解析して見ると、1 日は 8 穂(2 日で 16 穂)が隠されていた。

このことからスス暦は 1 日 16 穂⇒2 日 16 穂に改暦されており、その時期は約 27 鈴(紀元前 270 年)頃であった。そのため、1 日 16 穂に戻した年齢を見ると、スス暦当時の年齢も、現在人と変わらない年齢が隠れていた。

新年代の表示

上記の通り 高齢にて至った原因が判明したため、スス暦を現在の太陽暦の年齢表記に修正する。更に、補正值を用いて西暦年代に変換した。

修正方法

(式) 太陽暦 = スス暦 ÷ 一日の数え穗 ÷ 太陽暦の一年の日数

(式) 西 暦 = 太陽暦 - 補正值(536 年)

【論文に基づく 超古代史年表】

【年代評価】

考古学とホツマの新年表の年代が、同年代で一致する。

【ホツマツタエが明らかにする古代日本】

有史の古代日本は、紀元前6世紀～始まり、空白の紀元前4世紀～紀元3世紀を照らしていた。この史実は、ホツマツタエにより証明される。古事記や日本書紀では、解明できてないようだ。（ホツマツタエの記述が正確であった）

【縄文時代】

【アマカミ(天神)の御世】

①古代暦(スス暦)の初年

スス暦	新世紀	新年代	日本書紀暦
初年	紀元前6世紀	紀元前 536年頃	神話時代

ウビチニ＝ひな祭りの原型になった

「アマカミ(天神)」

「スス暦」の記述を元に計算した、遡った

「スス暦」の初年を表す

【弥生時代】

【アマカミ(天神)の御世】

②タカヒトの婚姻

(注)タカヒト＝イサナギ

婚姻年	新世紀	新年代	日本書紀暦
21 鈴	紀元前4世紀	紀元前 331年頃	神話時代

4アヤ(文)7、「二十一の鈴の 年すでに百二十万七千 五百二十に」

【鉄の伝来時期とイヅクリ】

鉄の伝来 :紀元前4世紀～紀元前3世紀、福岡県の石崎曲り遺跡(考古学)

ホツマの記述:紀元前4世紀 (紀元前330年～331年)

真澄鏡 イヅクリ(鑄物作り)進む イサナギは 天お治する うつの子お
(ホ 4アヤ(文)、15)

【アマキミ(天君)の御世】

③ワカヒトの生まれ (注)ワカヒト＝アマテル

生れ年	新世紀	新年代	日本書紀暦
21鈴	紀元前4世紀	紀元前 330年頃	神話時代

4アヤ(文) 24、「二十一鈴 百二十五枝 年キシエ 初日ほのぼの いづる時」

28アヤ(文)11、「二十一鈴 百二十五枝 三十一穂キシエの 初日の出」

④オシホミの天日嗣 (注)オシホミ＝オシヒト

天日嗣	新世紀	新年代	日本書紀暦
25鈴	紀元前3世紀	紀元前 290年頃	神話時代

19Bアヤ(文)1、「二十五鈴 百三十枝の 年サナト 春の初日に」

⑤テルヒコの葦原国治め (注)テルヒコ＝クシタマホノアカリ

葦原国	新世紀	新年代	日本書紀暦
26鈴	紀元前3世紀	紀元前 280年頃	神話時代

20アヤ(文)1、「二十六鈴 十六枝 四十一穂 年キヤエ 弥生」

⑥キヨヒトの新治宮治め (注)キヨヒト＝ニニキネ

新治宮	新世紀	新年代	日本書紀暦
26鈴	紀元前3世紀	紀元前 280年頃	神話時代

21アヤ(文)1、「二十六鈴 十七枝 二十三穂 弥生初日」

⑦ウツキネの天日嗣 (注)ウツキネ＝ヒコホホデミ

天日嗣	新世紀	新年代	日本書紀暦
36鈴	紀元前3世紀	紀元前 224四年頃	神話時代

26アヤ(文)1、「三十六鈴 三十四枝 三十八穂 弥生望」

【アスス暦】

暦法の再現

ホツマツタエには、アスス暦の御世として、アスス 21 年～アスス 843 年が記述されている。また、アスス暦の暦法の再現のため、日の裏付けとなるエトを再現される基準とすると、1 年約 385 日と 1 年約 265 日において「±1 日」以内で再現する。（但し、閏月の挿入月名が不明であるが。）

太陰太陽暦の再現

1 年約 385 日と 1 年約 265 日を組み合わせて太陰太陽暦を再現して見た。すると、19 太陽年との差は、約 385 日×16 年+約 265 日×3 年の組み合わせで+20 日が計算される。このことから、アスス暦の太陰太陽暦の平均日数は、概算で約 366 日になる。更に、約 6500 年の期間を丹念に計算すると、一年の日数は理科年表の「1900 年 1 月 0 日 12 時の回帰年」の平均日数約 365.2421987811 日に対し約 365.2422099 日 が得られた。

説明用の概算計算値

	1 年の日数	年	経過日数	概算の 1 年日数
1	約 385 日	16	6160	
2	約 265 日	3	795	
			6955(+20)	約 366.05 日
	約 365 日	19 太陽年	6935	365 日

アスス暦解読時の検討過程の内容

アスス暦の暦日の計算ペースは、スス暦の次の暦であったため、年月日の経過日数をスス暦と連動する解読式を作成し、太陰非太陽暦の計算をした。その差が、スス暦とアスス暦の差の 33 年になっていた。その後、ホツマツタエの記述を遵守し、スス暦の 20 年の翌年がアスス暦のアスス 20 穂であるため、その差の 1 年を導入した。

比較内容	新	旧	オリジナル
暦日の基準	改訂太陽暦の経過日数	スス暦の延長である 仮想の大きい暦数字	スス暦の延長である 仮想の大きい暦数字
1 年の日数	365.2422 日	365.2422 日×1.1086	384.1948 日、264.1946 日
エトの再現性	不可	不可	再現性大
太陰非太陽暦	回避	回避	太陰非太陽暦
年代評価	西暦に準じる	ほぼ西暦に準じる	諸外国の暦と対比不可
呼び名	普通暦	是正暦	なし
スス暦とアスス暦の差	1 年	33 年	33 年
年表の開示	説明あり	旧のため削除	旧のため削除

アスス暦は、太陰非太陽暦

アスス暦の暦日より暦法を再現させ、1 年日数が太陽暦と同等な一年の日数が再現しても、古代天皇の崩御歳は 100 歳が約 60%以上と多く、神武天皇は 127 歳で崩御されていた。このため、アスス暦は、太陽暦でないと判定し「太陰非太陽暦」と命名した。学者は、同じ意味の暦日本書紀暦を「紀年」と呼び、西暦に互換性ない暦として扱って来た。または、一部学者は、「2 倍暦」と云っている。

太陰非太陽暦(2 倍暦)が存続した原因

江戸時代前期に、林羅山、林鷺峰らの儒学者により、神武天皇の崩御年127歳に計算される原因も究明しないまま、神武天皇元年をシナの「周の恵王の17年に振り当てていたことが判明した。そして、シナ周の恵王の17年を西暦に換算する紀元前 660年になっていた。

太陰非太陽暦を太陰太陽暦に解明できなかった原因

アスス暦には、人間が動かすことが出来ない自然科学での現象があり、その自然科学の現象の一つに、「不知火」がある。例に漏れず、アスス暦にも不知火が現れた日は、旧暦の景行天皇 18 年 5 月朔(初)に現れた記述がある。だが、近年の不知火が現れる日は、旧暦の 8 朔であり、5 月朔との間には 3 ヶ月のズレがあった。

だが、古代人も近代、現代人もこの 3 ヶ月のズレの違いを解明しないまま、太陰非太陽暦(2 倍暦)を許容して来た。また、その 3 ヶ月のズレを許容した遠い一因には、1300 年以降の古文献には、不知火が現れたことも割愛されていたものがあり、この本が近代の主流本として重宝がられたため、現在でも 2 倍暦を糺すことできなかった。それでも、明治の 5 年の改暦時には、シナ(支那)の王と天皇の在位年数の違いを比較し日本の方が超大であることは把握されたが、江戸時代の本居宣長の書物より「現状のまま」が継承され現在に至る。

【スメラギ(天皇)の前夜】

①アスス暦の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
21穂	紀元前2世紀	紀元前 151年頃	神話時代

28アヤ(文)65、「二十一穂の キナエの春は アメフタエ 天鈴暦と」

【河内湖とタケヒトのヤマト討ち】

紀元前666年～紀元前660年(約2660年前) 神武東征(日本史) 長暦(暦)のため、紀元前7世紀と古代過ぎる疑問がある。

調査結果

大阪府の全域は、古地図「弥生時代中期(約2000年前)」によると、大きな河内湖になっていた。その中でも、上町台地の半島の先端が岬になっていた。(考古学)
上町台地は、三津は、現在の大阪城付近で、現在「御津宮」があるが、古くは「三津」の地名がある。

ホツマツタエの記述

「タケヒトの大和討ち」の年代は、紀元前136年(約2131年前)頃、弥生時代・中期頃であり、また「ホツマツタエ」には、「早浪立つる 三津岬 名も浪速の 港より」の記述があった。(ホツマ情報 29アヤ(文)、17)

柿本人麻呂の時代(飛鳥～奈良時代)

ホツマの「三津岬」が、後の「柿本人麻呂」の時代でも存在していた証明

三津崎、柿本人麻呂 羈旅の歌八首の一首 万葉集249

(年代は不詳であるが、660年～720年頃の人と云われる)

【元歌】 三津崎 浪矣恐 隠江乃 舟公宣奴嶋尔

【訳文】 三津の崎の波が恐ろしくて(早浪立つる)隠れたような入江に入って
(三津岬の入江)野島の土地神に舟旅の無事を祈ろう 舟が密集して
浮かんでいる

【スメラギ(天皇)の御世】

②タケヒト(神武)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
58穂	紀元前2世紀	紀元前 133年頃	紀元前 660年

29アヤ(文)67、「年サナト 橿原宮の 初年と 御代神武の 大ひなるかな」

30アヤ(文)13、「年サナト(58) 初日 サヤエ(17)に」

③ヤスキネ(綏靖)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
134穂	紀元前1世紀	紀元前 95年頃	紀元前 584年

31アヤ(文)38、「新都 カダキ(葛城) に建て宮移し」

時天鈴百三十四年 ツアエ(13)春 初日 サナエ(57)の」「長弘本は、ツアト」

④シギヒト(安寧)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
170穂	紀元前1世紀	紀元前 77年頃	紀元前 548年

31アヤ(文)61、「時天鈴 百七十年 ネアト(50)天フミ(七)三日 御子シギ(磯城)」

⑤ヨシヒト(懿徳)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
208穂	紀元前1世紀	紀元前 58年頃	紀元前 510年

31アヤ(文)74、「時天鈴 二百八穂 サミト(28)キサラ(二月)四日 ネアエ(49)」

⑥ミルヒト(孝昭)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
243年	紀元前1世紀	紀元前 40年頃	紀元前 475年

31アヤ(文)83、「時天鈴 二百四十三年ツミエ(3)春 ム(一)ツキ ツウエ(23)初」

⑦オシヒト(孝安)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
326年	紀元1世紀	紀元 3年頃	紀元前 392年

31アヤ(文)94、「時天鈴 三百二十六年 初のナカ シギ(磯城)ナガハエが」

⑧ネコヒコ(孝靈)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
428年	紀元1世紀	紀元 54頃	紀元前 290年

32アヤ(文)1、「時天鈴 四百二十八年 初十二日 シキ(磯城)クロダの」

⑨モトギネ(孝元)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
504穂	紀元1世紀	紀元 92年頃	紀元前 214年

32アヤ(文)32、「時天鈴 五百四穂 ム(睦)月 十四日 新都 カルサカイバラ」

⑩フトヒヒ(開化)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
560穂	紀元2世紀	紀元 120年頃	紀元前 158年

32アヤ(文)48、「時天鈴 五百六十穂冬 メ(十)の十二日 春日イサ川 新都」

⑪キソニエ(崇神)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
621年	紀元2世紀	紀元 151年頃	紀元前 97年

33アヤ(文)1、「時天鈴六百二十一年 キナエ(21)春ム(睦)ツキ ネシエ(19)初」

【銅鐸とミソコタカラ】

紀元前1世紀(紀元前37年7月)、日本書紀は、「甘美御神 底宝御宝主」の文のように、「神、底宝」と誤訳した痕跡あり。「御底宝」と訳しておれば、「ミソコタカラ」と訳した筈であろう。(日本史)(朝間ヒラク氏より引用) もし、日本書紀が、誤訳をしてなければ、世紀の発見になった筈であった。この発見は、「ミソコタカラ」として、ホツマツタエ遺跡の発見につながっていた。

紀元前2世紀～紀元2世紀に銅鐸が作られ、1996年に加茂岩倉(出雲)にて、銅鐸が発見され、その銅鐸総数が三十九(ミソコ)個であった。(考古学)

紀元2世紀(紀元179年～180年頃)(ホツマ情報 34アヤ(文)、60)
タマモシヅ 出雲祭らば マグサマジ カヨミ押し振り ねみ鏡 ミソコタカラ(三十九宝)
の ミカラヌシ (訳文:良くわかってない)

⑫キソサチ(垂仁)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
689年	紀元2世紀	紀元 185年頃	紀元前 29年

35アヤ(文)1、「時天鈴 六百八十九年 ネヤエ(29)春 ムツキ ツアト(14)初」

【埴輪とハシモノ】

紀元1世紀(紀元3年7月)(埴輪の作り始め (日本史))

紀元3世紀後半～6世紀後半に埴輪が作られた(考古学)

紀元3世紀(紀元200年頃)(紀元3世紀)(ホツマ情報 37アヤ(文)、10)奉る 今よりは ハシモノ(土師物)お 生けるに代えて 御陵に 植えて例しと なすべしや

【コメント】

この頃に、埴輪が作られて、次の古墳時代へと移行して行ったことが、ホツマ情報より読み取れます。

【古墳時代】

⑬タリヒコ(景行)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
788年	紀元3世紀	紀元 234年頃	紀元 71年

38アヤ(文)1、「時天鈴 七百八十八穂の フ(七)ツキ 十一日」

⑭タリヒコ(景行)五十五年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
843年	紀元3世紀	紀元 262年頃	紀元 126年

40アヤ(文)98、「時天鈴 八百四十三穂の 秋天日」

【日本書紀暦】

変更内容

第 13 代成務天皇～第 16 代仁徳天皇について、それ以後の天皇の治世年数と比較し長大化のため、太陰非太陽暦(2 倍暦)であったと判断し、太陰太陽暦に変更した。この傾向は、スス暦、アスス暦での長大化の現象と同じであった。

【日本書紀の年表】

⑮成務天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
成務初年	紀元3世紀	紀元 264年頃	紀元 131年

⑯仲哀天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
仲哀初年	紀元3世紀	紀元 294年頃	紀元 191年

⑰神功天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
神功初年	紀元3世紀	紀元 299年頃	紀元 201年

⑱応神天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
応神初年	紀元4世紀	紀元 334年頃	紀元 270年

⑲仁徳天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
仁徳初年	紀元4世紀	紀元 354年頃	紀元 311年

⑳履中天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
履中初年	紀元4世紀	紀元 399年頃	紀元 399年

(21)反正天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
反正初年	紀元5世紀	紀元 405年頃	紀元 405年

(22)允恭天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
允恭初年	紀元5世紀	紀元 410年頃	紀元 410年

(おわり)